



# 発達障害支援に関わる人材の育成



## ①コンセプト

### 発達障害のある人

15歳未満 推計61,000人

- 先天的な脳機能の障害で、その症状は低年齢から現れる。
- 対人関係やコミュニケーション、行動面に問題を抱えているため、集団生活に支障を来すことが多い。
- 外見からは分かりにくいいため、周囲から誤解されがち。

### その一方で、

- 早期に気付き、適切な支援を受けることによって、社会に適応し自立した生活を営む方もいる。 → 得意分野で能力が発揮できる人材として自立できる。

### まずは、

発達障害に早期に気付き、適切な関わりができる人材を育成する。

発達障害児・者支援プロジェクト（平成23年度～27年度）





# 発達障害支援に関わる人材の育成



## ②人材育成研修の実施

発達障害に早期に気付き・適切な関わりができる人材の育成

目標: 10,500人 → 実績: 10,546人(H28.2末)

### ①保育所・幼稚園の先生

平成23年度～

発達障害に早期に気付き、発達障害の特性に応じた配慮や工夫ができる人材

1園3人の支援体制 → **5,856人を育成**

### ②市町村の職員

平成23年度～

地域の発達障害施策を推進するとともに、相談等に適切に対応できる人材

障害福祉、子育て支援、母子保健担当 → **769人を育成**

### ③小学校の先生

平成25年度～

保育所・幼稚園の支援を小学校につなぎ、適切な指導ができる人材

1校6人の支援体制 → **3,921人を育成**



〈講義による研修〉



〈幼保小合同ケーススタディ〉

教育局と連携し、保育所幼稚園の先生と、小学校の先生と一緒にグループでケーススタディを行う他流試合の研修を実施

# 発達障害支援に関わる人材の育成

## ③研修の成果

### 保育所・幼稚園の成果

保育所・幼稚園の受講者アンケート

		(受講前)	➡	(受講後)
① 先生の変化	⇒ 早期に気付けるようになった	27.4%		82.3%
	⇒ 園全体で対応するようになった			79.6%
■園全体で気が散りやすく集中できない子供に短い言葉ではっきりと声掛けするようにした				
② 子供の変化	⇒ 子供の行動に変化があった			67.9%
	■事前に絵カードで一日のスケジュールを示したところみんなと行動できるようになった			
③ 保護者の変化	⇒ 保護者の行動に変化が見られた			84.7%
	■子供が園で集団生活に馴染めていない状態を受け入れ、専門機関に通うようになった			

成長段階に応じ、将来を見据えた適切な支援を行うことによって、その子供の活躍の可能性が広がっていく。